

I 実践

1 研究主題

「互いに認め合い、励まし合い、助け合うことのできる児童の育成」

(1) 主題設定の理由

本校は、「ふるさと山部を愛し 心豊かに たくましく生きる山部っ子の育成 ーかしこく、なかよく、たくましくー」を学校教育目標としている。児童の半数近くは、祖父母と同じ敷地に居を構え、祖父母と関わりをもつ機会が多い。祖父母との関係などから、地域の人と交流をもつこともある。児童は明るく素直で、高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見ている。しかし、少人数のため、集団生活の中で甘えが出て、自己中心的な言葉や行動をとってしまう児童もいる。また、本校は、複式学級3クラスでクラス替えもないため、友人関係が崩れてしまうとなかなか修復が難しい。小学校を卒業後は人数の多い中学校へ進学することを考えると、集団の中で、思いやりの心をもって誰とでもなかよく生活できる児童の育成が必要である。

そこで、学校の教育活動全般の体験や交流を通して、本校のめざす児童像である「明るく、思いやりのある子ー互いに認め合い、励まし合い、助け合う子ー」の育成を目指して本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 総合的な学習の時間、道徳、特別活動を中心とした全教育活動における

(イ) 愛校活動

たてわり班ごとに、週1回特別教室を清掃した。上級生が、下級生の面倒をみながら自分たちの学校をきれいにすることができた。今年は、学校前の落ち葉掃きも行った。

(ウ) 山部ふれあい運動会

綱引きやリレー、玉入れなどたてわり班対抗の種目があり、班長が中心になって練習した。下級生に対する配慮や上級生に対する感謝の気持ち、班一丸となつての活動や応援が見られた。

イ なかよし給食

年三回の実施を通して、たてわり班や他の学年の児童、担任外の教師との親睦を図った。一緒に食べるメンバーや場所がいつもとちがうので、会話が弾み、楽しく会食することができた。上級生が下級生の給食や机を運び、それに感謝する姿が見られた。



ドッジボール大会



愛校活動(落ち葉掃き)

(3) 豊かな体験活動の展開

ア 山部ふれあい運動会